

あなたの得意技は何ですか？

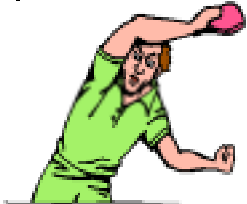
先日、甥の空手の試合を観に行きました。空手について全くの門外漢である私にとっては、何が反則で、どうなった時が「きまった」のか全く分かりません。ただ小学生の頃にお兄ちゃんにいじめられてはピーピーと泣いていた甥が大学選手権に出場するということが、もの珍しさで出かけて行ったのです。

試合は何がどうなったのか全く分かりませんでした。たくましく成長し、落ち着いた物腰に叔母さんとしてはビックリすることしきりでした。お兄ちゃんに連れられて小学生の頃から道場に通い始めたのですが、お兄ちゃんのは科学が好きで、そちらの勉強に力を入れたくなり、辞めてしまいました。弟の方は、練習は厳しいし、何よりも痛いから辞めたいと思った時が何度もあったようですが、「次の大会こそはチャンピオンになる」と自分を励まし続け、厳しい練習を続けていくことで、自分に対する自信が生まれ、その自信が落ち着いた物腰を作り上げていった。生きていく上での得意技を見いだしていったのです。



さて、ある大学の先生が「個性とは、自分の持っている得意技である」と言っています。得意技とは、相撲や柔道等で上手投げが得意であるとか、大外刈りが得意であるというように、その人が最も自信を持っていて、他の人にはちょっと真似のできない技のことです。みなさん一人一人もこの得意技を必ず持っていると思うのですが、気付いていない人が多いような気がします。

確かに得意技を身に付けるということは、そう易々とできるものではありません。勉強にしてもスポーツにしてもそれぞれの分野で得意技を身に付けていくには、人よりも多くの練習をし、努力を続けていくことが求められてきます。簡単に身に付くというものではありません。得意技は、自分の周りにいる友達や自分にかかわりのある人達のもの見方や考え方をしっかりと見つめ、そしてその目で自分自身を見つめていくことによって、得意技の芽を育むことができるのです。芽を見だし、丈夫な幹へ育て上げていくのは最終的には自分なのだということを自覚していきたいものです。そのために私達はいくらでもアドバイスをしていきますよ。



一年間ありがとうございました

あっと言つ間に一年が過ぎ去るうとしております。子供達はどんどん成長し、三年生は卒業を間近に迎えても最後までしっかりと勉強に取り組もうを合い言葉に頑張っております。一・二年生は六中を巣立つていく三年生にさらに大きな思い出づくりをと、「三年生を送る会」の準備にそれぞれの学年の総力を挙げて取り組んでいきます。学校中にエネルギーが満ち満ちているなという感があります。教育とは、人生の扉を開く鍵に他ならないという理念でスタートした一年でしたが、保護者の皆様からよきアドバイスを多々頂いた一年でもありました。ありがとうございました。ありがとうございました。



水泳部の活躍

毎年恒例となっている六中水泳部とアメリカンスクールの生徒との交流試合がありました。名付けて「ムスタングインビテーショナルチャンピオンシップ」。生徒達の華麗な姿は職員室前に掲示されていますのでご覧下さい。

(写真部顧問の八尋先生撮影)